

JBBY

JBBY (Japanese Board on Books for Young People 日本国際児童図書評議会) が

今行っていること、考えていること



© 安野光雅

JBBY は、2024 年に創立 50 周年を迎えます

< JBBY とは >

一般社団法人日本国際児童図書評議会 (通称 ^{ジェービービーワイ}JBBY) は、国際児童図書評議会 International Board on Books for Young People (通称 ^{アイビービー}IBBY) の日本支部として 1974 年に設立されました。IBBY は、ドイツ生まれのジャーナリスト、イエラ・レップマンによって、1953 年に創設された、約 80 の国や地域が加盟する世界的組織です。

JBBY は、「本とおして国際理解を」「平和な未来を子どもたちに」というレップマンの理念に賛同し、世界と日本をつなぎ、IBBY の日本支部としての役割を担うとともに、IBBY の使命ののっとして、日本国内でも、子どもと子どもの本のために今何が必要かを念頭に、JBBY ならではの活動を展開しています。その活動は、作家、画家、翻訳家、編集者、出版関係者、図書館員、研究者、読者など、子どもと本に心を寄せる、幅広い会員の志とボランティアにより支えられています。

< JBBY が大切にしていること >

1. 子どもたちにどのような本を手渡したいのか、手渡すべきなのか、子どもたちにとってどのような未来が必要かを、ともに考え、語り合う場をつくる。
2. 作家・画家・翻訳家等、本の作り手を支援する。
3. 児童書の編集者が学べる場をつくり、多様で豊かな出版活動を支えていく。
4. 子どもの本に関する海外の情報を日本で発信する。
5. 海外に向けて、日本の作家・画家、質の高い子どもの本の情報を発信する。
6. 障害、貧困、言葉の壁等を超えて、あらゆる子どもに本を届けるようつとめる。

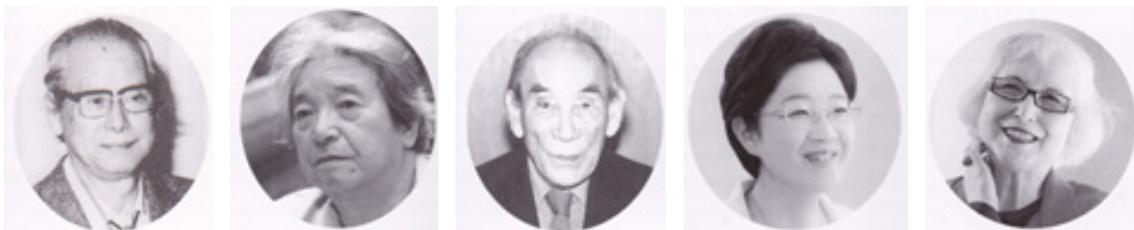
< IBBY の使命 >

1. 子どもの本ととして国際理解をすすめる。
2. どんな場所にいる子どもたちも、文学的、芸術的に質の高い本にめぐりあえるようにする。
3. 世界中、ことに発展途上国において、すぐれた子どもの本の出版や普及を奨励する。
4. 子どもと子どもの本に関わる人々を支援し、その能力を高める機会を提供する。
5. 児童文学関連の学術研究、調査活動を促進する。
6. 子ども権利条約にのっとり、子どもの権利を守り、支援する。

< JBBY の活動 >

1) IBBY の支部としての活動

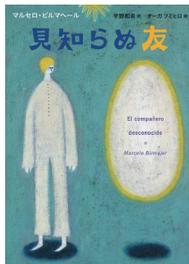
・国際アンデルセン賞（作家賞、画家賞）候補の推薦（隔年）
… 全業績が評価される。各国から出された候補を国際選考委員が審査して決定する。JBBY は推薦候補について大部な資料を英文で作成する。



* 現在までの画家賞受賞者は、赤羽末吉氏（1980）、安野光雅氏（1984）、作家賞受賞者は、まど・みちお氏（1994）、上橋菜穂子氏（2014）、角野栄子氏（2018）。

・IBBY オナーリストの選出（隔年）… 外国に紹介するのにふさわしい、素晴らしい作品を、文学、イラストレーション、翻訳の各部門に推薦する。IBBY 各支部から推薦された作品はそのままオナーリスト（推奨リスト）に入る。

* 2024 年は、日本から、文学作品部門に『夜叉神川』（安東みきえ作、講談社）、イラストレーション作品部門に『なきむしせいとく 沖縄戦にまきこまれた少年の物語』（たじまゆきひこ作、童心社）、翻訳作品部門に『見知らぬ友』（宇野和美訳、マルセロ・ビルマヘル作、岩波書店）を推薦した。



・IBBYのバリアフリー児童図書への推薦（隔年）…誰もがアクセスできる本、障害がある子どもや人物を描いた本の2つの部門があり、各国から推薦された図書をIBBYが検討して国際的に推薦すべき図書を選定する。

* 2023年の選定図書40点の中には、JBBYが推薦した作品のうち、『仕事に行ってきます！①クッキーづくりの仕事 洋美さんの1日』（コトノネ編集部、埼玉福祉会）、『りんごだんだん』（小川忠博写真と文、あすなろ書房）、『わたしが障害者じゃなくなる日』（海老原宏美著、旬報社）が選ばれた。



・IBBYサイレントブックスへの推薦（隔年）…難民・移民の子どもたちが集まる、イタリアのランペドゥーサ島にある図書館に、言語の異なる子どもたちも理解できる文字のない絵本を送る。

* 2023年は日本から、『100』（名久井直子作、井上佐由紀写真、福音館書店）、『カーたろうとこけしっぺ』（山田美津子作、理論社）、『MOON PHASE』（駒形克己作、ONE STROKE）を送った。



・ブラチスラバ世界絵本原画展への推薦（隔年）…1967年からスロバキアで開催されている世界最大規模の絵本原画コンクールに日本の作品を推薦する。

* 2023年は、10作家（10作品）を推薦した。

（あべ弘士『よあけ』、荒井良二『ゆきのげきじょう』、石川えりこ『ほんやねこ』、きくちちき『ともだちのいろ』、齋藤 慎『おしりじまん』、ザ・キャビンカンパニー『がっこうにまにあわない』、junaida『EDNE』、たじまゆきひこ『なきむしせいとく』、堀川理万子『海のアトリエ』、桃山鈴子『へんしん』）





・国際子どもの本の日キャンペーン…4月2日のH.C. アンデルセンの誕生日を記念して、各国支部が順番に制作するポスターとメッセージを配布し、子どもの本を通して国際理解を推進するためのキャンペーンを行う。2024年は30年ぶりに日本が担当。メッセージを角野栄子氏が、ポスターアートを降矢なな氏がかき下ろした。



左から：2024年日本、2021年アメリカ、2022年カナダ、2023年ギリシャ

・IBBY 世界大会、地域大会などに参加して情報を交換する。

＊隔年で交互に開催される世界大会とアジア・オセアニア地域大会に出席する。2024年は、イタリアのトリエステで第39回IBBY世界大会が開催される。

・IBBYの重要なプロジェクトを支えるスポンサーとの橋渡し…「IBBY朝日国際児童図書普及賞」のスポンサーである朝日新聞社、及び「IBBY山田基金」のスポンサーである山田養蜂場との間の橋渡しをする。

2) IBBY とのかかわりの中で行っている活動

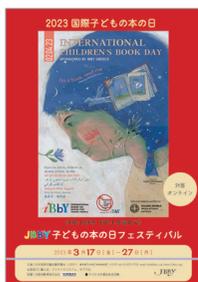
・世界の子どもの本展の開催およびカタログの作成…国際アンデルセン賞受賞者の図書と、IBBY オナーリストに選定された図書を巡回展示し、そのカタログを作成する。2023年度は、8会場で巡回。



・世界のバリアフリー児童図書展の開催およびカタログの作成… IBBYが選定する40冊を借り受け、国内巡回展示し、そのカタログを作成する。



・子どもの本の日フェスティバル…IBBYが定めた4月2日の「国際子どもの本の日」を記念して、会員が一丸となり子どもと子どもの本のためのお祭りを毎年開催。



・JBBY賞の贈賞（隔年）…JBBYが日本から海外の賞に推薦した作家や作品に贈呈している。

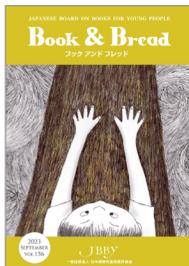
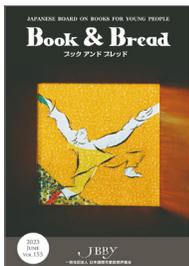
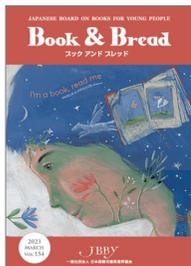


・ブラチスラバ世界絵本原画展への推薦・出展（隔年）+連動した国内展への協力
 ・アストリッド・リンドグリーン記念文学賞への推薦（毎年）。2023年は田島征三さんを推薦した。

3) IBBYの理念を活かしつつJBBY独自に行っている活動

<出版>

・Book & Bread（季刊）…機関誌



・*Japanese Children's Books* (毎年) …日本のすぐれた創作の子どもの本を、絵本・読み物・ノンフィクションに分けて英文で紹介している。2016年に創刊。選考委員が討議を重ねて掲載作品を選び、紹介文を執筆する。英訳は、日本の文学や児童文学を英語に翻訳している方たちに依頼している。

・「おすすめ！日本の子どもの本」(毎年) …*Japanese Children's Books* の日本語版。2018年に創刊。

・「おすすめ！世界の子どもの本」(毎年) …日本で出版されている翻訳の子どもの本を、絵本・読み物・ノンフィクションに分けて日本語で紹介している。2018年秋に創刊。選考委員が討議を重ねて掲載作品を選び、執筆している。



< 講座 >

・新・編集者講座…若い編集者のための講座

* 2023年度はオンラインで実施、メインテーマは「いま、子どもの本は何を伝えるのか？」

- (1) 植村八潮氏 (専修大学文学部教授) 「デジタルでひらかれる子ども本の将来」
- (2) ギータ・ウォルフ氏 (インドTara Books 代表) 「タラブックス 社会を変えるしなやかな本づくり」
- (3) 増田喜昭氏 (子どもの本専門店メリーゴーランド店主) 「作り手と読者をつなぐ 子どもと本の居場所づくり」



・世界の子どもの本講座・国際アンデルセン賞講座

* 2023年度は対面とオンラインで実施

- (1) 百々佑利子氏 (翻訳家 / 研究者) 「オセアニアの児童文学から読み解く多文化と多様性」
- (2) 游珮芸氏 (作家 / 研究者) 「台湾の子どもの本の歴史と絵本の現在」
- (3) 林綾野氏 (キュレーター) 「現代絵本のパイオニア堀内誠一の生涯と作品」
- (4) シドニー・スミス氏 (絵本作家) 「美しい光と影を描き出す シドニー・スミスの絵本表現」



・子どもの本の翻訳フォーラム…翻訳の子どもの本のおもしろさと
難しさを伝えるシンポジウム

＊2023年度はオンラインで実施「ノンフィクションの翻訳を考える」
(小川真理子氏、さくまゆみこ氏、竹内 薫氏、原田 勝氏、藤田
千枝氏)



<プロジェクト>

・希望プロジェクト…日本にいる困難を抱える子どもたちを本で支援し、子どもの本に関わる者たちが視野を
を広げることを目的としたプロジェクト。専門家に話を聞く「学びの会」と、子どもたちに本を贈る活動、
子どもと本の出会いをつなぐブックリスト「あしたの本だな」がある。

＊ 学びの会、2023年度はオンラインで実施

- (1) 攪上久子氏(公認心理師)「バリア(障害)を超える子どもの本～IBBYバリアフリー児童図書について」
- (2) 須永祐慈氏(ストップいじめ!ナビ副代表)「いじめってなんだろう? どうして起こる? どうしたらなくなる?」
- (3) 西野博之氏(フリースペースたまりは理事長)「生きる力をはぐくむ居場所づくり～不登校やひきこもりの子どもたちによりそう」



＊本を贈る活動

- (1) 野馬追文庫…東日本大震災以来、福島県南相馬市へ定期的に図書を送付
- (2) 子ども食堂などへ要請に応じて本を寄贈
- (3) 日本に避難してきた子どもへ文字のない絵本などを寄贈



＊「あしたの本だな」…少年院や少年鑑別所をはじめ、子どもと本の出会いをつなぐブックリスト



<その他>

- ・国際講演会やワークショップの開催
- ・イタリア・ポロニヤ国際絵本原画展の巡回
- ・上野の森親子ブックフェスタに参加



・会員の自主活動

- (1) ノンフィクションの子どもの本を考える会…社会科学、自然科学を扱ったノンフィクション児童書について、会員限定の自主勉強会をオンラインで実施。
- (2) 絵本部…子どもの本関係の展覧会を鑑賞
- (3) YouTube チャンネルで、IBBY や JBBY がすすめる本の紹介動画を配信



・「フォーラム子どもたちの未来のために」への参画

2024年2月

一般社団法人日本国際児童図書評議会 (JBBY)

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町 1-32-503

Tel: 03-6273-7703 Fax: 03-6273-7708 info@jbbj.org

HP: <https://jbbj.org/>

facebook.com/JBBYpi

twitter.com/JBBYpi

instagram.com/jbbj_kodomonohon/

<https://www.youtube.com/c/JBBYkodomonohon>

